

【記者からの質問】

<令和5年7月九州北部豪雨災害対策>

西日本新聞／大雨関連で200億円弱の予算。活用を想定している人、活用の形とは？
知事／今回、被災者は少なかったものの、公共インフラの被害が大きかった。公共インフラは、広く県民への役割を果たしている。少しでも早い復旧に全力を尽くす。

平原地区、鳥巢、富士町、七山など、深刻な被害を受けた地域に寄り添い、丁寧に対応する。今回の災害の特徴を踏まえ、発災の翌日に復旧・復興本部を立ち上げた。

西日本新聞／国際線の情報発信と利用者助成、あるいは佐賀から海外へのアウトバウンドに期待するものは？

知事／全国の空港が人員不足で体制整備が戻らない中、佐賀県は保安要員などを確保し復便できた。これに合わせ、コロナで滞っていた情報発信に力を入れたい。中国便では、キャンセルが出たが、上海便を維持できるよう傾注したい。

NBC／肥前鹿島駅エリアの現状の課題と、今回の予算に対する考えを聞きたい。

知事／鹿島・太良地域は、魅力のある地域。人は、素晴らしい人や場所に巡り合うために、その場所を訪れる。鹿島・太良地域の潜在価値をもっと花開かせたい。駅というより、エリアプロデュースをして、この地域のすばらしさがにじみ出るようなものをつくっていききたい。

駅を自分たちが使う駅だと考えると、周辺が駐車場になってしまう。来てもらって、喜んでもらえる入り口としての駅をいかに出せるかが課題だと思う。そのためにも職員が住み、この地域の日々の暮らし、そこに住むすばらしさを体感できるものにしたい。

肥前浜駅のHAMA BARは、ふだん地元の人が集まって楽しんでいることに観光客が触れる。そのことが大事だと思う。

日経新聞／HAMA BARへの補助金額は？

知事／1,000万円。

日経新聞／空港の利用者助成の内訳を詳しく教えてほしい。

県職員／アウトバウンド（佐賀空港を利用して海外に出ること）分が、上海便に1,800万円、ソウル便が500万円。

知事／航空会社によると、アウトバウンドが少ないとのこと。西安便以外は、インバウンドの方が多かった。その是正を航空会社から求められている。

コロナが明けたのを機に、海外旅行のプロモーションをしたい。

佐賀新聞／災害対策事業が完了する見込みは、いつ頃か。

知事／これから災害査定が順次行われ、それによって事業費が確定、その後事業になる。現在、令和3年災害のめどが立った。およそ2年のスパンで事業は進んでいく。今回は、砂防事業など大きな事業もあるので、もっとかかりそうだ。

現在、建設業は事業をたくさん抱えている。豚熱対策にもご協力いただいているので、公共事業はある程度、繰り延べする措置を取っている。ただ、事業も大事なので、なるべく早く査定が終わり、形になるようにしたい。

佐賀新聞／県の財政に対する災害対応の重さを、どう感じているか。

知事／今回の災害対応も加味し、財政収支の見通しを立てた。今回の災害では、基金残金で5憶ほど使う予定。これを加味すると、将来負担比率で、プラス1%程度の影響を受ける。将来負担比率は、この先2年程度がピークで約140%になり、その後改善する。安定的な財政運営ができています。現在の将来負担比率は133.3%。これは全国でいい方から13番。今後2年間も全国10位台を維持できる見込み。

佐賀新聞／処理水の問題で日中関係が悪化している。懸念や課題に感じることは？

知事／処理水の問題は、科学的根拠で冷静に話してもらいたい。国が分かりやすく説明すると、分かってもらえる。その努力を重ねることと、草の根交流がアジアの安定の命綱だと考えている。それに私たちのプロモーション活動が寄与でき、相互理解が深まり、お互い行き来できるように努力したい。

共同通信／西九州新幹線開業1年に併せたインバウンドの集客策を考えているのか。

知事／西九州新幹線の開業で、大村駅に近い長崎空港が活性化した。九州佐賀国際空港が復便すると、九州全体に効果が波及する。コロナ前は、九州佐賀国際空港のインバウンドが多かった。有沿道路や西九州新幹線などの公共インフラと連携させるのが大事。

共同通信／西九州新幹線関連のPRをインバウンド向けにやるなど、観光的な取り組みへの考えは？

知事／上海にも高速鉄道網があり、新幹線そのものが観光素材になるとは思っていない。効率的に九州のすばらしいところを周遊する中で、武雄と長崎を結ぶルートのプロモーションは考えたい。